

経営比較分析表（令和3年度決算）

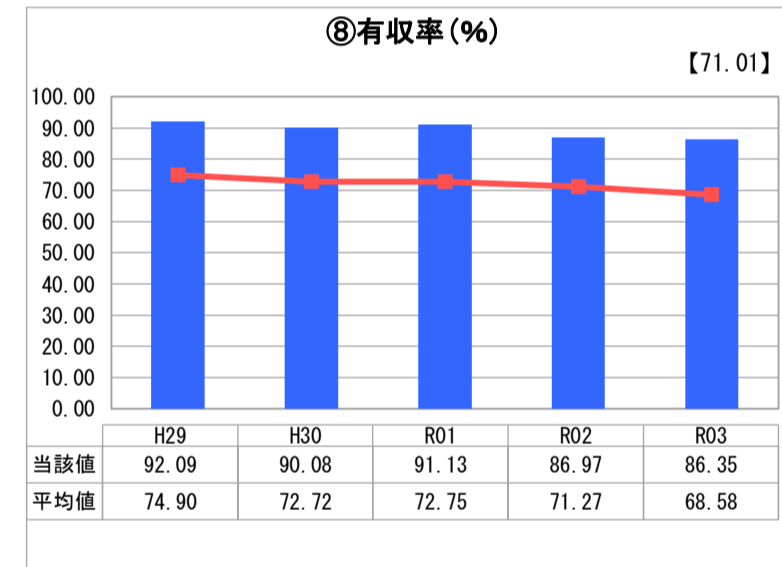
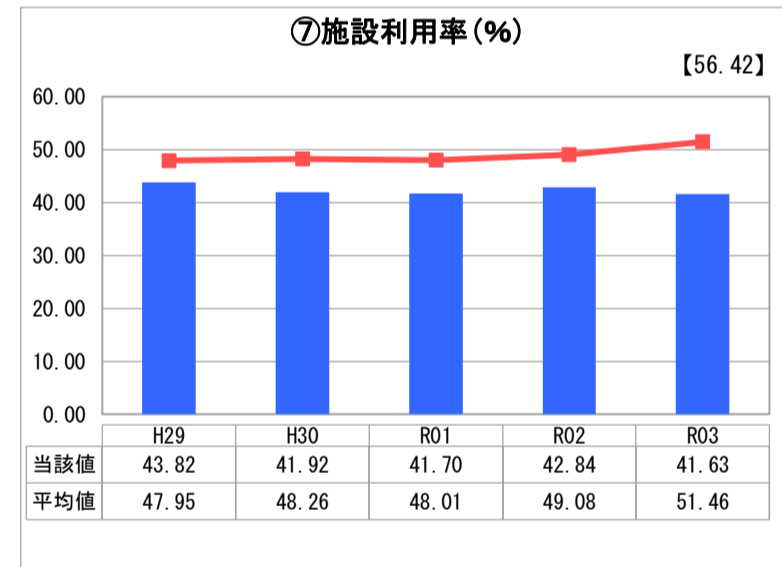
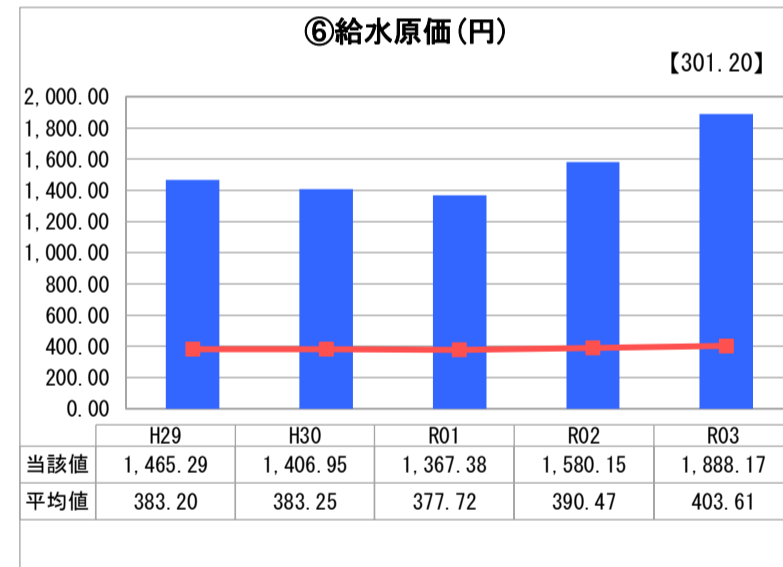
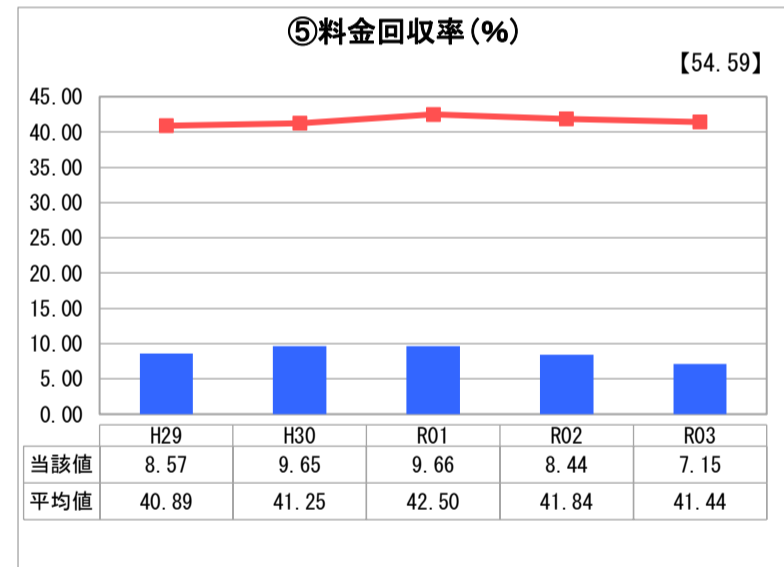
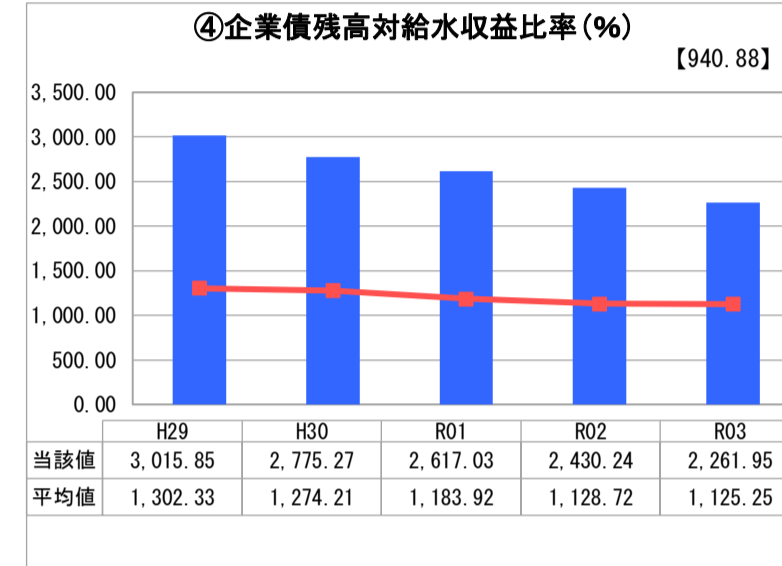
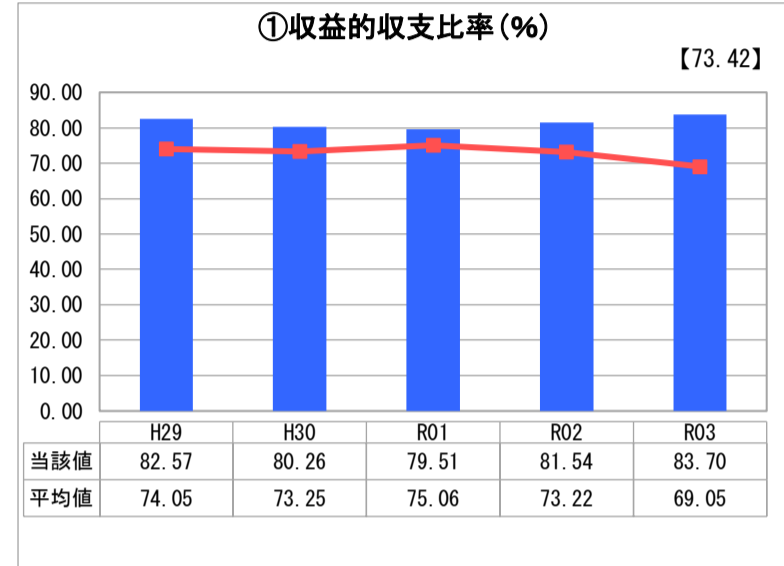
福井県 高浜町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	4.23	2,050	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,049	72.40	138.80
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
420	0.23	1,826.09

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

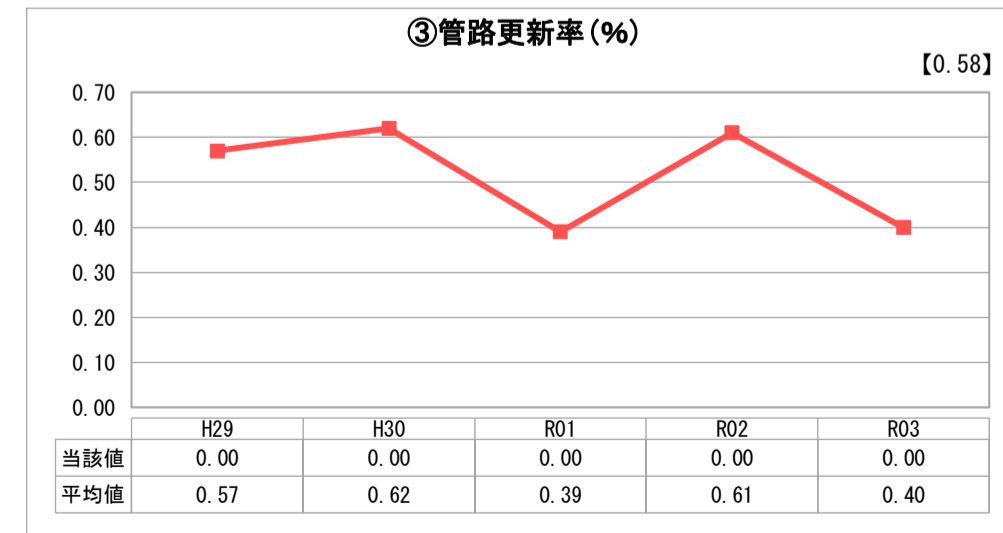
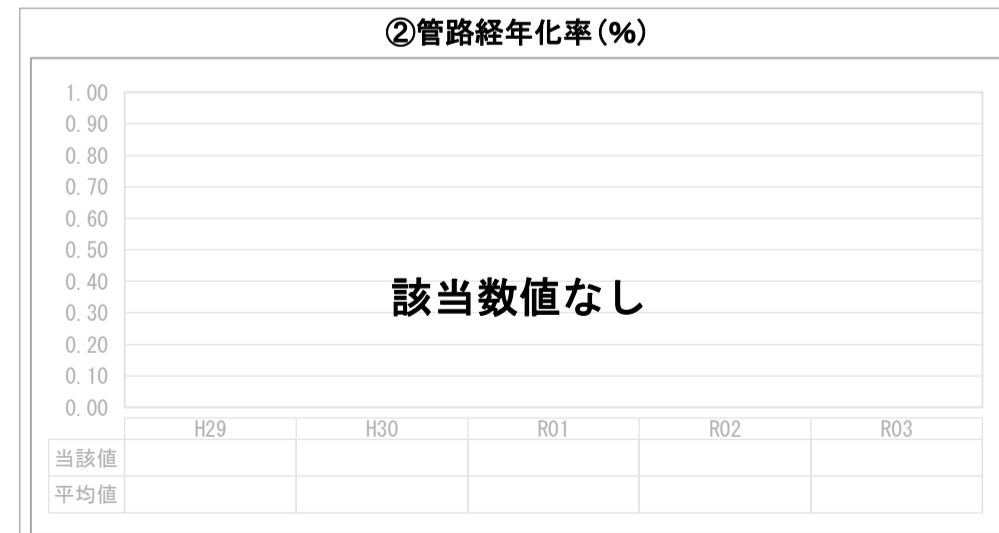
1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率
両指標とも100%未満であり、また、総収益の約90%を占める一般会計からの繰入金があれば、総費用を賄うことができない状況にある。よって、料金改定による収入の増加を検討するとともに、施設維持管理にかかるコスト削減に努めていく。
- ④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値の約2倍となっているが下降傾向にある。近年は新たな借入れをしていないため、今後も徐々に下降していく見込み。
- ⑥給水原価
類似団体平均値を大きく上回っており、施設修繕費等の増加に伴い、給水原価も上昇した。今後は、計画的な維持管理によりコスト削減を図っていく。
- ⑦施設利用率
横ばい状態が続いている。今後、給水人口の減少により利用率が下降してきた場合は、ダウンサイジング等を検討する必要がある。
- ⑧有収率
類似団体平均値を上回っているが、今後も漏水の早期発見等に努めていく。

2. 老朽化の状況について

現在、4つの簡易水道施設と2つの飲料水供給施設を供用しており、最も古い施設の管路整備から20年が経過している。現状では、管路の耐用年数40年を経過していないため、老朽化対策等は実施していないが、今後を見越して事前に区域ごとの点検等を行い、費用負担を平準化した上で計画的に更新していく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

現状、使用料収入だけでは到底賄え切れず、一般会計からの繰入金によって経営が成り立っている状態にある。令和6年度から水道事業と経営統合し公営企業会計となるため、独立採算性を考慮すると、更なる財源確保に努めなければならない。よって、収入の増加のための料金改定を数年後に実施することを検討しており、また、施設維持管理等の支出についても、日常点検により施設の状態を確認しながら、計画的に修繕・更新していくことでコスト削減に努め、安定した経営を目指していく。